

奈良市



結核

だより



奈良市保健所

1. 結核とはどのような病気ですか？

せきやくしゃみの小さなしぶきの中に含まれる「結核菌」を直接吸い込んで感染します。また、乾燥した室内で、小さなしぶきの水分が蒸発して空気中に浮いた結核菌を吸い込んででも感染します。

食器、衣類などの物を介して結核がうつることは決してありません。

2. 感染と発病は違いますか？

「感染」とは・・・

結核菌を吸い込んでいて身体の免疫機能により体内に結核菌を閉じ込めている状態をいいます。他人にうつすことはなく、胸部レントゲン検査でも異常は見られません。

「発病」とは・・・

身体の免疫力・抵抗力が低下し結核菌が活動し始めている状態で、他人に感染させる可能性があります。胸部レントゲン検査で影がうつります。

3. 結核はどのような症状が出現しますか？

結核の7割以上は肺結核であり、その症状は風邪とよく似ています。2週間以上続く咳やたん、血たん、発熱、胸痛、からだのだるさ、食欲不振、急な体重減少などの症状には注意が必要です。また、症状の現れ方には個人差があり、高齢者は症状が出にくく、受診が遅れる場合も多くあります。咳やたんがなくとも、微熱・食欲不振・からだのだるさが続く場合には、必ず医療機関で胸部レントゲン検査を受けましょう！！

4. 結核は昔の病気ではないのですか？

結核は現在でも1年間に1万人の患者が発生し、うち約1,600人が亡くなるわが国では最大の感染症です。奈良市では令和4年に31人が新規に結核と診断され、そのうち77%が70歳以上の高齢者でした。

昭和35年（1960年）頃は死亡原因の上位であり、「国民病」として流行していたため、高齢者の中には結核菌に感染している人がいます。年齢を重ね免疫力が低下することで発病することがあります。結核患者の中で高齢者の割合が高いのはこのような理由のためです。また、特に若年の外国生まれの患者の割合が増加しており、若年層（20～29歳）の新規患者のおよそ77.5%を占めています。

5. 結核は治る病気ですか？

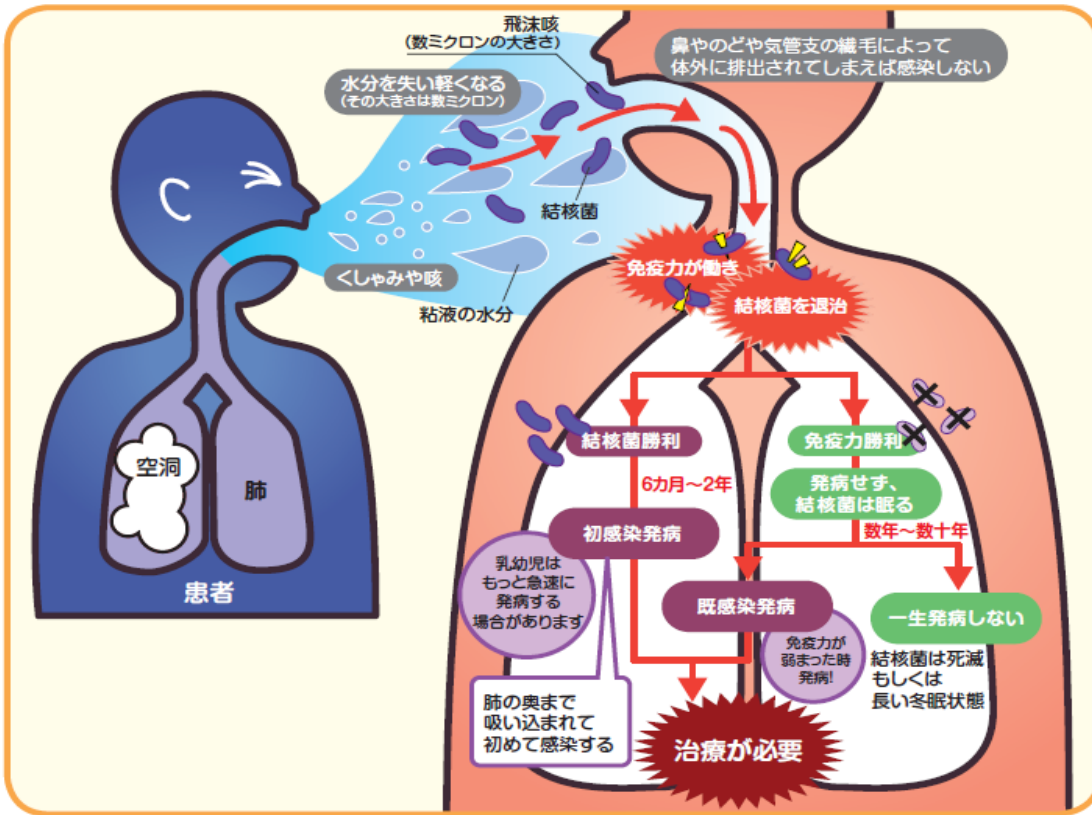
結核は、治る病気です。

3～4種類の結核のお薬を6～9か月、毎日きちんと飲めば治ります。



6 結核は感染したらすぐに発病しますか？

結核菌は発育が遅く、早くても感染してから6か月～2年の間に発病する場合（初感染発病）と感染後数年～十数年後に抵抗力が低下したときに発病する場合（既感染発病）があります。結核に感染している人のうち、発病するのは10人中1～2人といわれています。



シールぼうや

出典：結核の常識 2014

7 結核を予防するためにできる事がありますか？

○BCG 接種を受けましょう（乳児）。

BCG は結核発病の可能性を低下させ、重症化を防ぐためのワクチンです。赤ちゃんは結核の免疫をもっていないので、必ずBCG 接種を受けましょう。できるだけ早い時期の接種をお勧めします。



○栄養バランスのとれた食生活を心がけましょう。

過度のダイエットや偏食は免疫力を低下させる一因となります。



○疲労を避けストレス解消を心がけましょう。

疲労が慢性化しストレスが続くと、免疫力の低下を招きます。



○禁煙しましょう。

タバコの煙に含まれる有害物質は約 200 種類。肺がんの危険性はもちろんのこと、結核の発病にも影響を与える危険性があります。



○年に1回は健康診断（胸部レントゲン検査）を受けましょう。

